

第6回奈良ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 太田 満

- ◇開催日時 2020年9月24日(木) 19時00分～22時00分
- ◇方法 Zoomによるオンライン研修
- ◇参加者 【現職教員等】
- 奈良：中澤哲也、圓山、浅井、山方、川崎敦子、中澤敦子、小谷、中村(朱雀)、三木
大牟田：高倉、石橋、下地、柴田、島
大分：河野
- 【学生】：嶋田、足立、櫓、下原、北、西條
- 【奈良教育大学】：大西、杉山、太田 計24名

◇内容

1. 5年生 海の時間(単元計画)：石橋先生

[単元構想について]

○減災教育の構想、自助、共助、公助の観点から考えた。

○単元の流れ(全25時間)

- ・課題設定Ⅰ：なぜ大雨が降るようになったのだろう
- ・情報収集Ⅰ：GT(市役所、公民館、消防団)の方から、当時の様子を調べる
- ・整理分析Ⅰ：事実を基に「なぜ大雨が降る日が増えてきているのか」を考える。
- ・まとめⅠ：海水温が上昇し、水が蒸発しやすくなることで、大気中に雲が増えたから
- ・課題設定Ⅱ：自分たちにできることを考える
- ・情報収集Ⅱ：マップチーム/行動マニュアルチーム
- ・まとめⅡ：「自分たちがつくったものを、地域に発信しよう」
- ・課題設定Ⅲ：自分たちが作成したものに付加修正する
- ・情報収集・整理分析Ⅲ：発信する方法や相手などを話し合う
- ・まとめⅢ：学習のまとめ

○課題設定Ⅱでは、どのようなものを作っていくのか未定

- ・マップチームとマニュアルチームで一回吟味しあうことができるとよりいいと思った
- ・実際に資料としてみる→目で見るだけとはやはり大違い
- ・実際に被害に遭われた子もいたので、授業で扱うのには少し不安もあった
- ・自分事として、豪雨災害の危険性や解決していくためにできることを真剣に受け止められて考えられている。
- ・また起こるかもしれない、という危機感
- ・小学生ならではの意見をどう取り上げていくか
- ・奈良など他の地域では危機感や自分事として受け止めることが課題
- ・子供が作っていく制約がありそう。お年寄りの方の個人情報を扱うことに若干の懸念。ただし新しい気付きや公助・共助の選択を迫ることができるので可能であれば素晴らしい方法だと思う。
- ・すでにハザードマップはあるはずなので、さらに新しいものを作る必要性を感じさせるこ

とが大切。「なぜ今までも災害はあったのに、課題が出てくるの？」という問いがあるといいな。そのために、「なぜ大雨が降るのだろう」という問いを生かしたい。気候変動と防災で少し毛色が違うので、うまくつなぎたい。

- ・今回の水害で子供によって差は大きい。その差が気づきを促す。
- ・行動マニュアルの方では、防災バッグ調べとして、みんな準備中しているのか、中身は何が入っていればいいのかなどを考えるのもいいかも。
- ・[良かったところ] ハザードマップに頼り切らず、クリティカルに考えること。またそれに自分の経験を加えることでインパクトのある学びになる。今年だからこそその学び。自分事になりやすそう。
- ・自助などの3つの視点がしっかりと指導案にちりばめられている。工夫されている。小学5年生でやる意義深さ。
- ・理科的な視点をどれくらい入れるべき？気候変動との関連。
- ・マップチームと行動マニュアルチームのそれぞれの学びの共有はどのように？片方だけの学びにはせず、共有する必要があるのでは？
- ・自分の経験だけでは子どもの視点に限られるので、地域の話も反映させると良いかもしれない。
- ・災害があって子供たちが経験した記憶が濃いうちに授業化することは、行動の変革につながる良い取り組みだとおもう。一方で、辛い体験になっている場合、心のケアなどセンシティブな内容もあるためすぐにできるのか？という点も気になった。
- ・小学校の子どもたちは絵を描くのが好きな子供たちが多い気がするので、イラスト付きであったり、4コマ漫画形式など、実用性もあるが実際作っていて楽しいものがあるのではないかな。
- ・行政が進めている「タイムライン作成」などを参考に要点をまとめてみてはどうか。
- ・今年から4年生で災害の単元がある。5年生の取り組みとの整合性をとる必要があるのでは。
- ・この実践は、前年はどのような取り組みであったのか、今後はどうつなげる予定があるのか？
- ・ワードの指導案の学習の展開をどのように作られたのか？フォーマットはオリジナルなのか？

[グループセッション後]

- ・個人情報取り扱いが難しい。でも、あった方が共助の視点が出てくると思う。「この辺りは足の悪い人が多い」程度は扱いたい。「ここに公助がいるよね」などの発言を期待したい。
- ・今までも災害はあった。対策をしていなかったのか？という問題意識で、新たな課題が見えてくる。新しいハザードマップが必要なんだ！という気づき。
- ・行動マニュアルの中に、防災バッグを入れることは、ぜひ入れていきたい。
- ・九州地方は防災バックの準備率が低いという事実を扱う。
- ・大牟田は大きな災害が起きない感覚⇒これを機に見直していく。
- ・理科的な視点の検討
- ・具体的な地域の話があった方がよいのでは。⇒子どもの視点だけでなく、高齢者・親などの視点も。
- ・立場に応じたマニュアルの作成を目指したい。
- ・前年度は減災教育の視点は入っていなかった。
- ・ハザードマップは既存のものがある（行政のものが出ている。）が、そこに、子どもたちの気づきを入れる。オリジナル情報を入れる。
- ・どのような資質・能力を育むのかという視点で学習を構成する。
- ・「まとめⅢ」段階の子どもはどのようになっているとよいのか。ゴールから単元構想案を見直す。

[大西先生より]

- ・これまでにない経験を教育内容にしていることの意義。
- ・大雨の問題は、気候変動が関わってくる。身近な生活のところでその問題を取り上げると、より ESD 的な実践となるのでは。
- ・本実践を通して、どのような価値観、行動化を目指すのか。もう少し整理されるとよいのでは。

2. 6年生国語科「書くこと」通して：中澤（哲）先生

[単元構想について]

- 平群町での実践
- 信貴山縁起絵巻…町民の認知度は低い
- 鳥獣戯画を読む（国語科）…優れた表現方法を学ぶ
- 町教育委員会学芸員、ボランティアガイド、産業課との連携
- 今回の実践の新しさ…①パソコンで書く。②前は似たり寄ったりの内容⇒国語の授業として③高畑さんの表現を学ぶ
- 感動を伝える文をつくる（6時間）
- 困っていること…グループワークができない状況。どうしたらできるか。

- ・グーグルミートを使っは。
- ・【素晴らしい点】…国語科につなげていく点、ICTを活用している点、実践を、視点を変えて追試する点、絵の持つ魅力や時代背景を感じることができると子どもたちの自分事化できる点
- ・【疑義】ゲストを呼ぶことは可能か？ 感動を伝える文を書く」がテーマだったら、信貴山縁起絵巻を見せ、感動を押し付けてしまうことにならないか。感動を強要する「感動ポルノ」、例外を認めない全体主義となる危険性を孕んでいるように思う。乗り越えるために、「感動」という言葉に幅をもたせるとよいのでは。「心が動かされた」としてはどうでしょうか。教師の腕の見せ所だろう。
- ・この実践を通して、EDSのどのような資質能力を身に付けることを求めているのか。子どもたちに今後、どのような行動の変容を求めるのか。
- ・前回の取り組みと比較して、ESDとしてのアプローチは何か違いはあるのか。
- ・①地域で知られてないものを、子供たちの手で外に発信するという構成が良いと思いました。また、子供たちが一所懸命勉強してきたことを、外に発信することに楽しさがあるのではないかと思います。②教科指導の中に ESD を取り入れるのが難しいと考えていたので、勉強になりました。③便利だからパソコンを用いるのではなく、パソコンを使うことにもっと意義があると良いと思いました。④「鳥獣戯画を読む」の作者の文体を分析するだけでなく、前年度の生徒の作品の検討をすることで、子供たちの作品作成の意欲がより高まると思いました。
- ・すごく楽しそうな実践だなと思いました。
- ・前回の取組から、形にはめず、2段落構成にすると、子どもたちは、どれくらい対応できるのか、不安要素がある。高畑先生の言い回しへの対応はどれくらいできるのか。
- ・パソコン打ちにすると、手書きに比べて、考えをどれくらいかけるのかなと感じています。書く方がやはり書きやすい？かなと。

[グループセッション後]

- ・前は、絵巻三話あるうちの一話。今回は三巻全部を提示して選択させたい。地域にある誇らしいものに対する気づきというゴールは変わらない。
- ・この実践を通して、どのような資質・能力を伸ばすか。⇒地域の人とのつながりを通したコミュニケーション能力等。
- ・手書きから書き始めたら、書きやすいかも。作る段階はワープロ。完成は手書きということも考えている。
- ・パソコンを使うことにもっと意義を感じさせたい。
- ・今回の実践では、もっと感動、もっと知ってほしい、というのを発信してほしい。(2年前の実践以上に)
- ・昨年度の先生は同実践をしていないので、今年度も継続して取り組みたい。
- ・学習内容にしぼりがあって「全体主義」的な感じ。一人ひとりの感じ方、表現方法をいかに認めていくか。自分の伝え方を大切にしたい。
- ・指導力があるがゆえに、子どもがついてこれない、ということもある。指導計画の「副作用」も考えたい。
- ・ESD としての国語科を提案している。教科として取り組むなら評価規準が必要。「誰も取り残さない」ような手立てをどうするか。高畑さんの文章を批判的に読むという取り組みもある(批判的思考力の育成)。

[大西先生より]

- ・同じ教材で、新しい視点を加味した提案がよい。
- ・ICT の活用能力については、本来は学校として系統的に育てるものでは。
- ・ESD の授業として本実践はどのような価値があるのか。また、学習のゴールを考えたい。
- ・総合の時間に、凝縮ポートフォリオ作らせていた。手作りにこだわっていた(あえてアナログに)。幅をもたせて作らせることも大切では。

3. 中学校 2020 年度 2 学期 NEWCROWN 3 単元構想案 ; 檜さん

[単元構想について]

- 中学校 3 年生が対象。メインが英語落語。文法的なこともおさえない(現在完了形)
- めあて: 落語について知り、英語落語に触れる活動を通して伝統文化を広めていこうとする態度を育てる。
- 子どもは、落語にあまり触れたことのない
- 学習の流れ
 - ・活動① 落語について知っている情報を整理する
導入: 落語についてどんなことを知っているかな?
 - ・活動② 教科書本文を読み、文法の理解を深める
展開① Lesson2 現在完了形の用法を復習する
 - ・活動③ 4 案を検討中
展開② 英語落語をやってみよう

- 人前で落語を発表することが難しい子もいる⇒幅をもたせる
- 活動③の案…①落語家にインタビューをする
 - ②鹿政談を英訳し、発表の機会を待つ。
 - ③英訳されている落語を班ごとに選び、発表の機会を待つ。
 - ④班ごとに好きな落語を選び英訳し、発表の機会を待つ。
- 英語を学習する意義…落語も、言語の違いを乗り越えて伝えることができる
- 中3生徒の実態をどう考え、授業を構想するとよいか。

- ・ <https://rakugo-nara.com/rakugo/>⇒画面共有にあった鹿政談や古々粹亭さんの URL
- ・ 言語教育として良くできていると思います。
- ・ ESD の価値観、SDG s のゴールのどれに当てはまるのかが気になりました
- ・ 英語の時間で「伝統文化を広めようとする態度」を養うことが難しいと思いました。(例えば、総合の時間にして、英語落語を世界に広めている人にピックアップした展開に持っていくことがありだと思いました)
- ・ 落語は日本語だからこそ良い面もあるので、英語落語の良さをいかに子どもたちに伝えられるかだと思いました。
- ・ 英語の授業として色々と仕掛けもあって面白い展開だと感じた。一方でこの授業でESDとしてどんな力を付けたいのか教えてほしい。
- ・ 発表に対して苦手な子もいる。①分を作る②話す③落ちを考える など役割を分けていく多様性があってもいいんじゃないか。
- ・ 文化の多様性を伝えるために英語を学ぶのであれば、落語はひとつの例でもいいのでは？漫才やTikTok など今の若者タイの笑いの文化なども英語で発信していてもおもしろそう。
- ・ 落語の写真を見て何をしているのかを考えるという活動がおもしろいと思いました。
- ・ 海外のコメディと落語とを比較させながら文化の多様性を認めていければいいなと思いました。
- ・ 英語の学習があつての ESD だと思うので、そこを落としてはいけないのではと思います。
- ・ 良いと思った点…教科書に則ってプラスα教師が YouTube などを活用して ESD 的要素を入れることで単元に面白みが出ている。教科と ESD の両立は難しいが、チャレンジしたのが素晴らしい！落語には興味を持ってくれると思う。
- ・ 改善できると思う点・疑問点…めあて・目標をもっと明確に用意する（英語科としての目標+ESDとしての目標に分けて書くといいかも？）
- ・ 案④は中学3年生の英語力では現実的に難しいのではないか
- ・ 中学生の生徒たちが落語を英語で発表したいと思えるような動機づけが難しいのではないか
- ・ 総合の時間の扱い方の課題
- ・ 活動について、英訳をするのは、苦手な生徒に対して難しいのでは。ジェスチャーや小道具を使ったような身振り手振りに焦点を当てるだけでもいい。落語であるが、動きにおもしろさもあると思う。

[グループセッション後]

- ・ 英語落語の面白い所は短い話が多い。落まで短い。日本の落語は長いというイメージ。
- ・ 文枝さんも英語落語のネタをもっているのでは。

- ・落語を英語で発信することがメインになるが、落語を他の教科でも活かしたらいいと思う。
- ・コミュニケーション能力をつけてほしい
- ・英語科としての目標と ESD としての目標。まずは教科としての目標があるのでは。
- ・英語で発信したいという動機付けが必要。
- ・英訳ができる子どもできない子どもいる。配慮したい。
- ・言語教育としては面白いけれども、英語学習の中で、価値観の形成や資質・能力の育成を意識するべきでは。
- ・価値観…互いの人権文化を尊重するが該当するのでは。
- ・互いの文化を尊重することを発信する、この点に重きをおけば。
- ・落語を英語落語にした時に「変化」がある。日本人にとっての面白さ、英語を母語にする人の面白さは異なる。その点の気づきを。
- ・落語に対する教材研究が不可欠。落語にこだわらず、他の日本の芸能を取り上げるなどの学習展開も考えられる。

[大西先生より]

- ・落語だけでなくてもよい。おとぎ話などもある。より面白くしたい
- ・ESD 的な要素をどこにどのように盛り込むか、もう少し整理できると更にいい。

4. ESD 社会科単元「公害の防止と生活環境」：島先生

[単元構想について]

○5つの視点

- ①教材開発の意図…水俣病の捉え直し、心理的距離の近さ
- ②学習指導要領との関連
- ③水俣病について、水銀、チッソ、現在の水俣
- ④先行研究…永田（2011）の課題
- ⑤単元構想について

- ・学習問題：水俣の海を、だれがどのようにして、きれいに
- ・水俣の人々は、水俣病の教訓をどのように生かそうとしているのだろうか？
- ・学んだことを自分たちの生活や吉野・大牟田のまちづくりに生かすにはどうすればよいだろうか？

- 聞きたいこと…
- (1) 問いは成立するか、
 - (2) GT と出合わせるタイミング、誰と出合わせるか
 - (3) ローカル（大牟田）の視点は必要か
 - (4) 学習の出口をどうするか

- ・ローカルに立ち返るか否かは、学習の出口に繋がる
- ・大牟田で公害があったかにこだわるのではなく、いかに子どもたちに問題意識を持たせられるか、自分たちの地域にどう落とし込めるか
- ・大牟田市も海に面している⇒海は繋がっているので、そこから環境問題につなげていくのはどうだ

ろう？（海は世界中につながっている）自分事としてとらえられる。

- ・批判的に見つめていく→学習の流れのどの部分を批判的に見ていこうと考えているのか？
問い（誰が水俣の海をきれいにしたのか）を批判的に見るのはどのようにしていくつもりでしょうか？
- ・学習問題については、答えがあるような感じなので、おもしろくないかなあ。かと言ってこれといった代案はないんだけど w
- ・水俣の事例をもとに環境負荷をかけている現代の問題を考えていく流れがいいのではないかな。
- ・大牟田の子どもからすると、水俣は近いのか？自分事として捉えられるか？それをどうやって見とるか？
- ・自分達のまちにもってくるには、現在の流れでは飛躍しているように思った。
- ・物理的な距離よりも、心理的な距離の方が課題だろう。（例：奈良在住の山方でも、隣県の四日市ぜんそくは身近だと感じていない）
- ・水俣学があるほど、環境を研究している者からすると、多岐にわたっている。水俣のどのエッセンスを抽出するかを絞らないと、深まらないのでは。そして、「自分事」化できないのでは。先行研究も、小学校に絞らなければ、もっとたくさんある。
- ・社会科であれば、「社会認識を通して公民的資質を養う」はず。しかし、水俣病にかかわる何を認識させるのか、みえてきづらい。当時の構造なのか。価値の対立なのか。それが固まると、どのような公民的資質をつけさせるのかもみえてくるだろう。（固めるのは、社会認識と公民的資質の順番は逆かもしれませんが）

[グループセッション後]

- ・あまり大牟田にこだわるつもりはない。
- ・海のつながりで見えていくのは面白いと思う。
- ・どこを批判的に見ていくのか ⇒環境に悪いと分かっているけど、水俣の排水を止めることができなかった。（人々の関係が見えてくる。このあたりは批判的に見えてくるのでは）
- ・水俣の海を、だれがどのようにして、きれいにしたのだろうか？は、調べて分かること。
- ・二酸化炭素問題との類似性。
- ・水俣を取り上げる意義…実際には難しさを感じる。ただ、大牟田が水俣と同じような状況があったんだということから、心理的距離を縮めたい
- ・大牟田は第3の水俣病というデマが流れた⇒風評被害が出た。
- ・公害問題の背景をどれだけ子どもが理解できるか
- ・公害問題によって、人間関係が崩れるというのは ESD 的にはやる価値がある。
- ・水俣問題の本質は何か。

[大西先生より]

- ・「もやいなおし」にもっと注目したい。
- ・水俣における「もやいなおし」から、自分たちの生活の「もやいなおし」を考えては。
- ・公害問題を取り上げることの難しさ…小学生の子どもに理解させることの難しさ

◎次回は、10月9日です。今回できなかった、下原さんの構想案検討をやります。